

# 耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、明けましておめでとうございませう。かわら版、今年もご愛顧のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

日常会話の中に浸透している仏教用語をお伝えしているかわら版。仏教用語がたくさん定着しているのには驚きです。

お正月に今年目標などを書き初めたお子さんたちも多いのではないですか。それとも、今書き初めなどはしないのでしょうか。僕の小学生時代は、冬休みの宿題でした。

高校球児であれば「今年は甲子園に出るのが悲願」とか、ピアノやバレエに取り組んでいるお嬢さんであれば「今年コンクールで優勝するのが悲願」とか、いろいろな「悲願」がありますよね。

さて、この「悲願」。実はこれも仏教用語です。

「悲願」が達成されれば、勝った本人は気持ちが良いですが、勝つ人がいれば、敗れる人もいますよね。「悲願」の陰では、必ず敗者がいることを忘れて

はいけません。

このように、私たちが日常使う「悲願」は、自分の願望、欲望を達成したいという「願ひ」です。「悲壮な覚悟で達成したい願ひ」が「悲願」。言わば「欲」の塊(かたまり)と言ってもよいかもしれません。もちろん、練習や努力の成果ですから、悪いことではありません。

昨年からのかわら版でお気づきの方も多いかもしれませんが、日常用語として浸透している仏教用語は、往々にして本来とは逆の意味で使われています。

「悲願」も同じです。本来の「悲願」は仏さまや菩薩が「衆生(人々)の苦しみを救うために誓われた願ひ」のことです。では、人々の苦しみをなげ生じるのでしょうか。

「あれが欲しい」「これが欲しい」「あれがほしい」「これがほしい」という「欲」を抱くことは人間の性質。そして、その「欲」が達成されないのが苦しみます。

仏さまや菩薩にとって、そ

ういう人間の「欲」や「苦しみ」を全てわが身に引き受けて、「欲」が達成されないことで「悲しみ」「苦しむ」人間の気持ちに「同悲」「同苦」するのが「悲願」なのです。「悲願」は「阿弥陀仏の本願」とも言えます。

なるほど、人間の「悲願」は「欲」の塊、本来の「悲願」はその「欲」から解放されることを願うこと。まったく正反対でした。

「欲」から解放されて、自己中心的な生き方を正すことを論ず言葉が「悲願」。そういう意味で使うとなれば、「今年こそはこうなりたい」「こうしたい」などという「悲願」は忘れないといけないことが「悲願」です。そういう心穏やかな気持ちになる、逆に人間の「悲願」は達成されるものです。

今年も日常用語の中に定着している仏教用語をお伝えしていきます。お付き合いのほど、よろしくお願ひ致します。ではまた来月、お会いしましょう。合掌。

耕平



かわら版執筆者大塚耕平  
王山「耕庵」 <https://ko-an.blog/>

知県名古屋市生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、中学校を卒業。2002年から地元の歴史・文化と振興のために、日泰寺の縁日(毎月21日)に「弘法さんかわら版」をお配りしています。2013年から知立遍照院の縁日でも「弘法さんかわら版」がスタート。

全国先達会、愛知県先達会、東日本先達会などで仏教関係の講演を行っているほか、毎年年末には日泰寺西隣の専修院で「弘法さんを語る会」を開催。中日文化センター「くらしの中の仏教」講座の講師も務めています。

著書に「弘法大師の生涯と覚王山」、「仏教通史」、「四国霊場と般若心経(大法輪閣)」など。

愛知県立旭丘高校、早稲田大学・大学院を経て、日本銀行に18年間勤務した後、2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。

現在、早稲田大学と藤田保健衛生大学医学部の客員教授を兼務。元中央大学大学院客員教授(2005~17年)。早稲田大学博士。

大塚耕平事務所 ☎0527571955 担当:あさい  
名古屋市千種区覚王山通9-19 覚王山プラザ2F

